

## ⑪公開実用新案公報(U)

平1-177364

⑫Int.Cl.

E 05 B 1/00

41/00

識別記号

301  
311

府内整理番号

M-7521-2E  
S-7521-2E  
H-7805-2E

⑬公開 平成1年(1989)12月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑭考案の名称 ドAINサイドハンドル

⑮実題 昭63-73373

⑯出願 昭63(1988)6月3日

⑰考案者 石坂 嶽 神奈川県横須賀市田浦港町無番地 関東自動車工業株式会社内

⑱出願人 関東自動車工業株式会社 神奈川県横須賀市田浦港町無番地

⑲代理人 弁理士 福留 正治

## ⑳実用新案登録請求の範囲

ドアトリム面の凹部に、ドア開閉用ハンドル及びロツクレバーがそれぞれ車室内方向へ回動操作されるように端部が支承されているドAINサイドハンドルにおいて、

前記ロツクレバー面にレンズを設けると共に、このレンズを前記ロツクレバーの非回動操作位置でヘッドライトと連動して点灯することにより前記ロツクレバーの裏面側から光照射する発光体を前記凹部に設け、

前記ロツクレバーの裏面における非支承側へ前記レンズと隣接する部分に、前記ロツクレバーの前記アンロツク位置への回動操作位置で前記発光体からの入射光を前記凹部の車室内から見える部

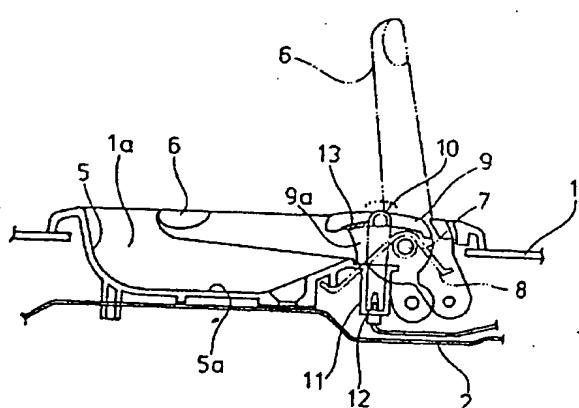
分へ向けて反射する反射板が設けられていることを特徴とするドAINサイドハンドル。

## 図面の簡単な説明

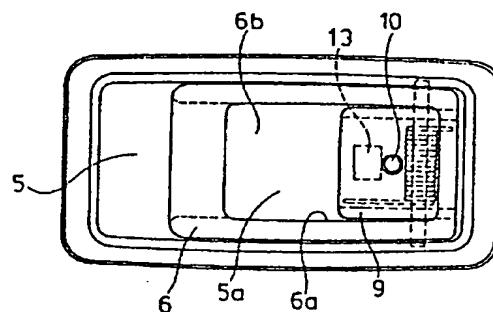
第1図～第4図は本考案の一実施例によるドAINサイドハンドルを示すもので、第1図はロツク状態の断面図、第2図はロツク状態の正面図、第3図はアンロツク状態の断面図及び第4図はアンロツク状態の斜視図並びに第5図は本考案の別の実施例によるドAINサイドハンドルの斜視図を示す。

5……ベゼル、5a……ベゼルの底面、6、2  
8……ドア開閉用ハンドル、9、29……ロツク  
レバー、10、30……レンズ、12……バル  
ブ、13……反射板。

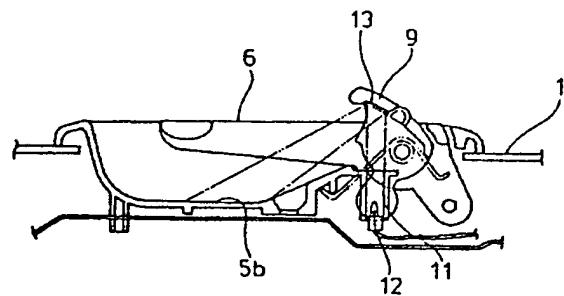
第1図



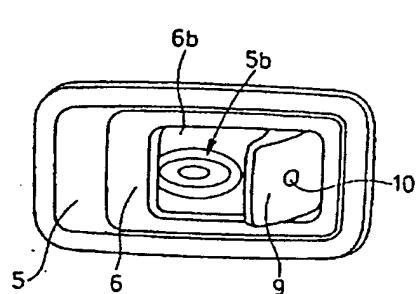
第2図



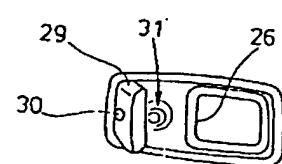
第3図



第4図



第5図



# 公開実用平成 1-177364

⑩日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U)

平1-177364

⑬Int.Cl.<sup>4</sup>

E 05 B 1/00  
41/00

識別記号

3 0 1  
3 1 1

府内整理番号

M-7521-2E  
S-7521-2E  
H-7805-2E

⑭公開 平成1年(1989)12月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全頁)

⑮考案の名称 ドAINサイドハンドル

⑯実 願 昭63-73373

⑰出 願 昭63(1988)6月3日

⑱考 案 者 石 坂 巖 神奈川県横須賀市田浦港町無番地 関東自動車工業株式会社内

⑲出 願 人 関東自動車工業株式会社 神奈川県横須賀市田浦港町無番地

⑳代 理 人 弁理士 福留 正治

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

ドAINサイドハンドル

### 2. 実用新案登録請求の範囲

ドアトリム面の凹部に、ドア開閉用ハンドル及びロックレバーがそれぞれ車室内方向へ回動操作されるように端部が支承されているドAINサイドハンドルにおいて、

前記ロックレバー面にレンズを設けると共に、このレンズを前記ロックレバーの非回動操作位置でヘッドライトと連動して点灯することにより前記ロックレバーの裏面側から光照射する発光体を前記凹部に設け、

前記ロックレバーの裏面における非支承側へ前記レンズと隣接する部分に、前記ロックレバーの前記アンロック位置への回動操作位置で前記発光体からの入射光を前記凹部の車室内から見える部分へ向けて反射する反射板が設けられていることを特徴とするドAINサイドハンドル。



### 3. 考案の詳細な説明

#### (産業上の利用分野)

本考案は、夜間において操作位置を明示するための照明付きドアインサイドハンドルに関するものである。

#### (従来の技術)

ロックレバーの先端に赤を着色してロック解除の確認を行わせるのが在るが、暗闇では役に立たない。そこで、夜間の操作を考慮して運転席でロックスイッチを解除した時に数秒間点灯してハンドル位置を視認させるのもある。

#### (考案が解決しようとする課題)

しかしながら、このような照明方法ではロックスイッチを操作しなければ視認は不可能であり、またロック及びアンロックの区別はできなかつた。

よって、本考案は、1個の発光体でハンドル位置の表示のみならず、ロック及びアンロックを光で確認させ得るドアインサイドハンドルを提供することを目的とする。

(課題を解決するための手段)

本考案は、この目的を達成するために、ロックレバー(9)の面にレンズ(10)を設けると共に、このレンズをロックレバー(9)の非回動操作位置でヘッドライトと連動して点灯することによりロックレバー(9)の裏面側から光照射する発光体(12)を凹部(1a)に設け、ロックレバー(9)の裏面における非支承側ヘレンズ(10)と隣接する部分に、ロックレバー(9)のアンロック位置への回動操作位置で発光体(12)からの入射光を凹部(1a)の車室内から見える部分へ向けて反射する反射板(13)が設けてある。

(作用)

ロックレバー(9)の非回動操作位置において、レンズ(10)はヘッドライトの点灯時には常時発光体(12)により裏面から照明される。

アンロック位置への回動操作位置では、反射板(13)が変位して光照射され、その反射光で凹部(1a)の車室内から見える部分(5b)が照明される。

(考案の実施例)

第1図～第4図は本考案の一実施例によるドアインサイドハンドルを示す。

第1図において、5は、ドアトリム1を開口してドアインナパネル2間に形成された凹部1aに装着されているベゼルである。6はドア開閉用ハンドルであり、表面に方形状の開口6a(第2図)が形成されると共に一端が車室内方向へ回動操作可能に軸7に支承され、ばね8でドアトリム1に平行な原位置に復帰するように付勢されている。開口6aには、ロックレバー9が、操作用の隙間6b(第2図)を残して同様にドアトリム面に平行なロック位置及び車室内方向の回動位置のアンロック位置間を回動操作されるように、側部のロック板9aで軸7に支承されている。

このような構造自体は周知のものであるが、本考案によりロックレバー9の表面にレンズ10が埋め込まれている。そして、そのロック状態でこのレンズに対向するベゼル5の端部位置に車幅方向の筒11が形成され、その内部にレンズ10を光照射する発光体としてのバルブ12が収納されている。

このバルブは、ヘッドライトと連動して点灯する。また、ロックレバー9の裏面におけるレンズ10と非支承側へ隣接する部分には、反射板13が取付けられている。この反射板は、第3図に示すように、ロックレバー9がアンロック位置に回動操作されると、レンズ10に代ってバルブ12に対してその入射光をベゼル5の凹状の底面5aへ開口6aを通して反射する角度に設定されている。

夜間において、ヘッドライトが点灯されると、連動してバルブ12も点灯する。ロックレバー9がロック状態にあると、第1図に示すように、バルブ12にレンズ10が対面し、その発光によりロックを確認できる。筒11の存在によりその照射光は絞られて反射板13にはほとんど入射しない。

一方、アンロック状態に在ると、バルブ12の照射光は、第3図に示すように、代って反射板13に入射してベゼルの底面5aへ向けて反射する。したがって、隙間6bを通して車室内から第4図に示すような照明部分5bが見え、一方レンズ10は発光しないためにアンロックを確認できる。

尚、前述の実施例において、ロックレバーは開閉用ハンドルの開口に挿入されているが、第5図に示すように、ベゼルの反対端に取付けられてハンドル26及びロックレバー29の非支承端同士が対向した構造のドAINサイドハンドルに対しても、レンズ30及び凹部見通し部分31を照明する反射板（図示せず）を装着して本考案を適用できる。

（考案の効果）

以上、本考案によればヘッドランプの点灯中は常時ドAINサイドハンドルの位置を視認できる。また、ロックレバー面のレンズが発光するか又は近辺のトリム面凹部が発光するかによりそのロック・アンロックを確認できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図～第4図は本考案の一実施例によるドAINサイドハンドルを示すもので、第1図はロック状態の断面図、第2図はロック状態の正面図、第3図はアンロック状態の断面図及び第4図はアンロック状態の斜視図並びに第5図は本考案の別

の実施例によるドアインサイドハンドルの斜視図  
を示す。

5…ベゼル、 5a…ベゼルの底面、

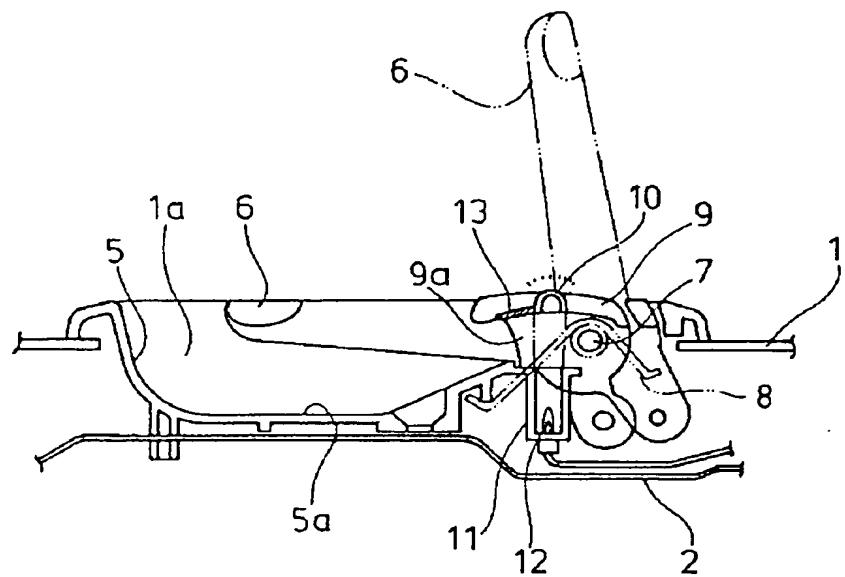
6、26…ドア開閉用ハンドル、

9、29…ロックレバー、 10、30…レンズ、

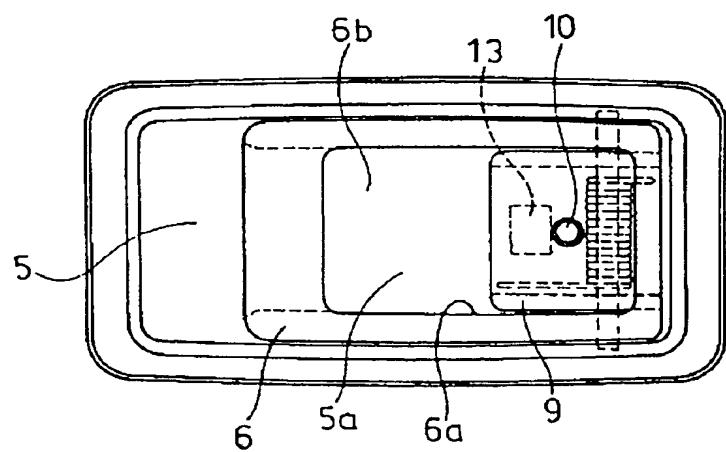
12…バルブ、 13…反射板。

代理人 福留正治

第 1 図



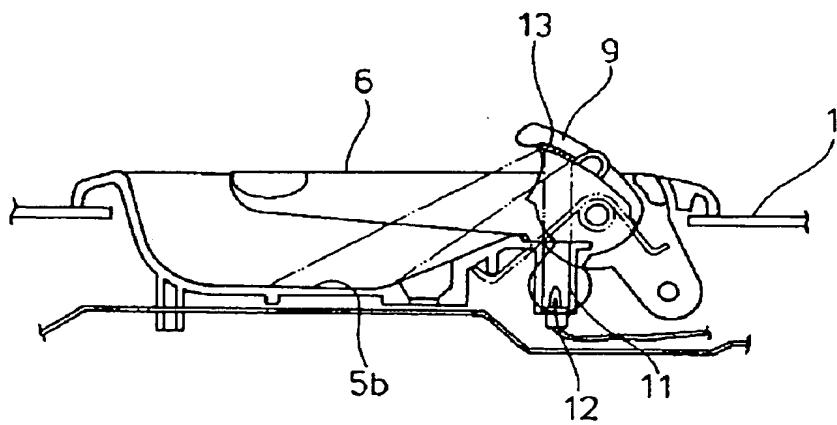
第 2 図



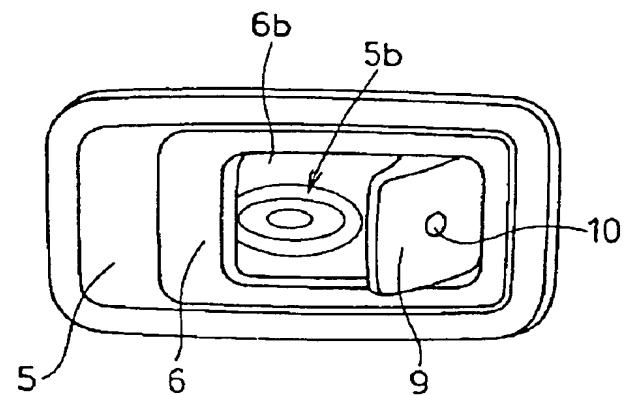
748

公開 1-177364

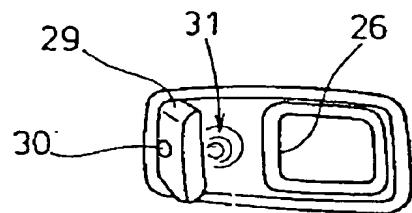
第3図



第4図



第5図



749

実開1-177364